

所 報

No. 52

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 0952-62-5211

も く じ

○ 巻頭言「私の情報収集法」	1
○ 平成元年度研修事業（短期研修講座）の実績と平成2年度の構想	2
○ 平成元年度九州地区教育研究所連盟「第40回研究発表大会」佐賀大会報告	4
○ 平成元年度研究紀要の概要	5
○ 指導のチェックポイント	
○ 「高等学校国語」・「中学校学級経営」	7
○ 長期研修生寸感	10
○ 私のすすめる一冊の本	12

巻 頭 言

私の情報収集法

佐賀県教育センター 研修一課長

松 本 正 光



「情報の洪水、氾濫」とは、よく耳にする言葉である。新聞の折り込みからの研究機関のデータ・ベースまで、世の中の情報量は近年著しく増大している。

書籍の刊行にしても、それなりの情報は発せられているはずだが、なかなかこれといった本と巡り合わない。受信側のアンテナの感度が20代30代ほど鋭敏ではなく、出版側の傾向にこちらから波長を合わせるような柔軟さを失ったせいであろう。

しかし、車族に便利のようにと街中から郊外へ移転していく書店から、われわれの食指をそそるような本が減ったのも事実である。そこで、多かれ少なかれ本によって仕事の資を得ている私は、自衛策を講じる必要に迫られる。

この所報にも、推薦図書のコナーがあり、先輩諸氏からの情報を活用させてもらっているが、手っ取り早く、しかも効果的な方法として、私が採用しているのは、知己・友人からの入手である。様々な職種の人から、それぞれの眼鏡にかなった本を紹介してもらうのである。この方法は情報提供者の専門・関心等についてもある程度承知済のことなので情報の利用度も高くなっていく。そこで、人に会えば「面白い本はあり

ませんか。」と尋ねるのが口癖になってしまった。

ところで、この方法も良いこと尽くめではない。知識にしても情報にしても与えるだけの間柄では、人間関係が稀薄になってしまう。やはり、ギブ・アンド・テイクでなければ価値の高い情報は得られない。新聞や雑誌の書評ではなく、自分の目で確めた本をストックしておいて、提供できる用意を心掛けていなければならない。

さて、私自身のストックだが、誠に心許ないかぎりである。最近のものから一冊を挙げると井上 靖著『孔子』がある。教材として幾度となく扱った論語の文章が、二千五百年前の中国を舞台に、新しい響きをもって蘇ってくる素晴らしい本であった。大空を翔る渡鳥の羽音の下で訥訥と語る篤藹の言葉は、孔子の姿を彷彿とさせて余りあるものがある。こんな著作が早く世に出ていたら、もっと深みのある授業が出来たであろうと残念に思う一方、当時の授業が如何に底の浅い瘦せたものであったかと、反省すること頻りである。

最後に、この所報をお読み頂いた先生方にお尋ねします。

「面白い本はありませんか。」

平成元年度研修事業（短期研修講座）の 実績と平成2年度の構想

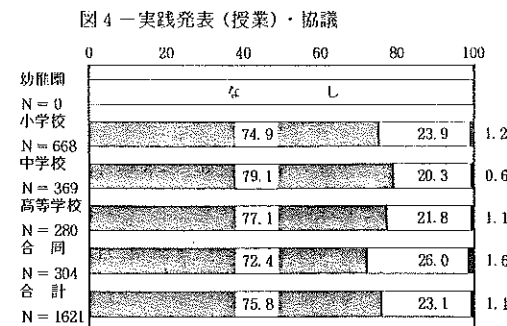
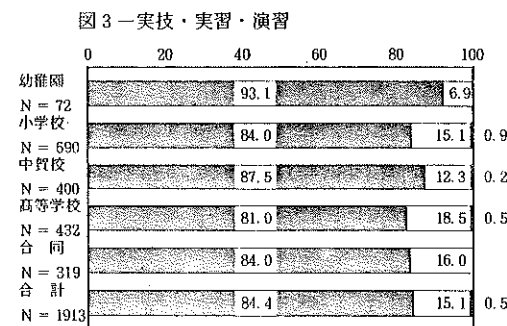
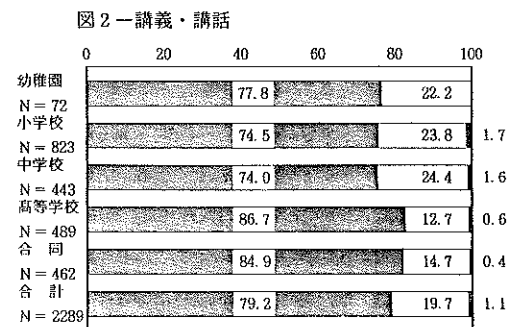
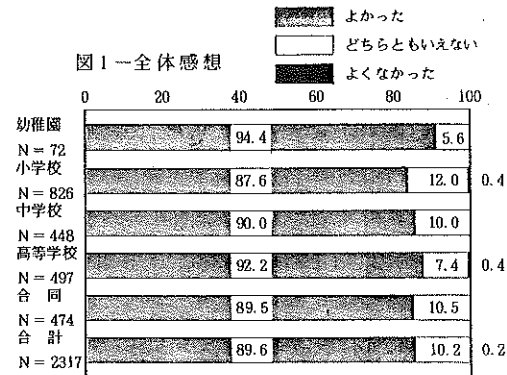
1 平成元年度の実績

- (1) 本年度の短期研修講座を総括すると、次の通りである。
- 教職員の資質・能力の向上に役立つために、計画的な研修を行う。
 - 研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の課題や社会の変化に対応した実践的研修を行う。
 - 研修方法に創意工夫を加え、受講者が意欲的に研修に参加できるように努める。これらを柱にして、116の講座を設定した。受講者は総数2,622名で、定員より65名上回り、上記3点の目標はほぼ達成できた。
- (2) 本年度から改善された点について
- ①4期制から3期制へ
年間を3期に分けて運営してきたが、期日の分け方が明確になり、受講者にとっても分かりやすくなった。
 - ②講座番号の変更（3桁から4桁へ）
講座番号の各位にそれぞれ意味を持たせたので、講座の種類、校種、期別等が分かりやすくなった。
 - ③定員の見直し
教科関係の講座については、教材・教具の準備等を勘案し、密度の高い研修をして頂きたいとの考えから、定員を削減した。また、経営関係の講座については、学校現場からの強い要望を考慮して定員の増員を図った。
- (3) 短期間研修講座の領域別、校種別受講状況

講座の領域	校 種	講座数	定 員	受講者数
教 科 国・社・算(数)・理 英・音・図(美)	小 学 校	21	534	568
	中 学 校	14	249	227
	高 等 学 校	14	212	212
	合同(小・中・高)	2	52	62
経営等 道徳・特活・ へき地・パソコン ・評価・学校 ・学級経営 ・事務等	小 学 校	13	380	347
	中 学 校	10	260	254
	高 等 学 校	10	275	262
	合同(小・中・高)	9	140	117
教育相談 情報処理	幼 稚 園	1	80	81
	合同(幼・小・中・高)	11	326	453
職 業 高 校		11	95	85
	合 計	116	2,603	2,668

(表1)

(4) 短期講座の感想



(5) 講師等

地 域		平成元年度	
		計 画	実 績
県 内	大学等(佐大, 短大他)	55	70
	教職員, 教育庁関係	207	209
県 外	九州内大学等	21	31
	近畿以西大学等	18	13
	中部以東大学等	11	8
総 計		312	328

(表2)

(6) 役に立った事柄

○原理・理論的なもの

教師としての自覚と教育実践の反省と今後の心構え, 教科・領域等に関する効果的な学習指導法, 広い視野に立った見方・考え方, 教育相談と児童・生徒理解及び学級経営の心構え。

○実践的なもの

現場教師による具体的な実践発表, 授業参観及び授業研究会, 学級経営の諸問題とその協議, 問題行動を起こす児童・生徒の事例発表, 学習指導案の作成, 僻地での複式指導, 教材・教具・資料の作成の仕方

○実技・演習的なもの

各教科の指導案作成と教材・教具の製作や使用上の留意点, 理科の実験観察の新しい知識・手立て, 学級経営の諸問題と解決法, パソコンの基礎技能の習得, S-P表の作成。

○情報交換的なもの

実践発表での意見や情報の交換, 教育上の諸問題についての他校の取り組み方。

(7) 受講後における現場での利用状況

講師の教育理論・方法, 実践等を授業実践に生かしている。教材研究の理論や方法や, 教材・教育の製作, 学習指導案の作成, 理科実験の工夫等, 演習したことなど。また, 学級経営と生徒理解, 教育相談に関すること。

2 平成2年度の構想

創設以来11年目の昨年度は, 前述のように, 特に講座運営面を中心に改善してきた。新年度は, 時代の要請に対応すべく, 次のような講座を新設する。

(1) 新設教科「生活科」への対応

小学校低学年に新設される「生活科」

に対応するため, 「生活科基礎」「生活科指導法」の講座を開設する。

(2) 豊かな情操と感性を育むために

これまで1本であった小学校図画工作科の講座を, 発達段階に即した研修にするために低学年, 中学年, 高学年の3講座に増設する。

(3) 情報化への対応

情報化及び技術・家庭科の男女共修に対応するため, 中学校技術科の「指導法」「実験・実習」「コンピュータの活用」, 高等学校家庭科「生活一般」「コンピュータの基礎と活用」「電気・機械」の計6講座を開設する。

付表1 短期研修講座(校種別概要)

校 種	講座数	受講定員
幼 稚 園	1	80
小 学 校	39	1,044
中 学 校	27	569
高 等 学 校	38	666
合同(幼小中高特)	21	503
計	126	2,862

付表2 短期研修講座(領域別概要)

領 域 等	講座数	講座日数	受講定員
教科教育関係講座	63	161	1,341
教育経営関係講座	22	53	690
教育相談関係講座	11	50	326
情報教育関係講座	30	180	505
計	126	444	2,862

おわりに

平成2年度から幼稚園の新教育要領が全面実施されるのを皮切りに, 4年度小学校5年度中学校, 6年度高等学校(学年進行)で新学習指導要領が本格実施に移されることになっています。新教育課程においては, 個性化教育の推進, 情報化社会への対応, 国際理解教育の充実等大きな課題が投げかけられています。

教育センターでは, これらの課題に対応すべく, よりよい研修講座を設定し, 幼児・児童・生徒の調和のとれた成長に役立ちたいと念じております。

平成元年度

九州地区教育研究所連盟 第40回研究発表大会
佐賀大会報告

九州地区教育研究所連盟ならびに全国教育研究所連盟および国立教育研究所が共催する「九州地区教育研究所連盟第40回研究発表大会」が、1月25日、26日の2日間葉がくれ荘で開催された。

大会には、国立教育研究所教育指導研究部長の永野重史先生をはじめ、九州各県教育センター及び市郡の教育研究所から115名の先生方、県教育委員会から志岐常文教育長、松下武志学校教育課長が参加された。

開会式では、佐賀県教育センター中尾正則所長（九教連委員長）の主催者の挨拶、共催者としての全国教育研究所連盟からの挨拶や佐賀県教育長の歓迎の祝辞があった。

続いて「児童生徒の能力・適性などの多面的な評価のあり方」と題して全体講演が行われた。講師は、国立教育研究所の教育指導研究部長永野重史先生である。その中で、現在の教育の中で求められている個性重視について「ある特性について、従来このくらいがよいとされてきた常識をすべて許容範囲をひろげる」「種々の特性について全員を理想のプロフィールに近づけることを止めて、個人の長所を伸ばそうとする」「適性処遇相互作用（個々の子供にあった教えかた）を考慮して、特性に合った教え方を工夫する」の三点を強調された。また、その評価については、「従来は、評価の座標軸をあらかじめ決めておき、個々の軸に投影される性格特徴や能力を測ろうとした。

個性を重視するのだったら個人の良さが最大にあらわれるような座標軸を個人ごとにみつけることが必要」と強調された。新指導要領下での評価が論議される昨今でもあり、参加者は、熱心に聞き入っていた。

ひきつづいて、午後三時半から5部会にわかれて、研究発表とそれにもとづく協議が行われた。

A群「物理部会」では、四件の研究発表が行われたが、佐賀県からは、「高等学校



(永野重史先生の講演)

における電磁気分野の実験指導について」柿内紀大研究員が発表をした。実験装置を会場に持ちこみ実物をまじえた発表は好評であった。

A群「技術・家庭」部会では、五件の発表があった。新指導要領における「情報基礎」領域の新設にともなって、マイクロコンピュータ利用に関する発表が目をついた。

B群「特殊教育部会」は、六件の発表があった。佐賀県からは、金子禎輔研究員が「県内における特殊学級児童・生徒の問題行動に関する調査研究」と題して県内の実態を発表した。

C群「図書資料」部会では、三件の発表がなされ、佐賀県からも、図書資料室の業務について、矢ヶ部清人指導主事が発表を行った。

D群「同和・複式・幼児教育」部会では七件の発表があり、佐賀県からは、武田徹研究員が「複式学級における同単元・同内容指導に関する研究」を、国語科学学習指導を例にひき発表を行った。

二日間にわたる熱意あふれた研究発表会を終えられ、再び九州各地に散っていく参加者の顔には、充実感と九州は一つという連帯感と、新境地にふれた満足感があふれていた。そして、来年度、長崎大会での再会を誓った。

(理科教育係 松尾 雅則)

平成元年度

研究紀要の概要

教育センターでは、教科・領域別に26の研究主題を設けて研究を進めてきました。そのうち、9本の研究が平成元年度に完結しました。2年度4月には、各学校に「研究紀要第14集」として配布する予定です。研究に当たっては、県内小・中・高校の御協力と研究委員として委嘱した48名の先生方のお力添えをいただきました。本県及び学校現場が当面している課題に沿った内容になるように心がけたつもりです。教育活動の充実と改善のために御活用いただき、御批正を賜れば幸に存じます。

一教育基礎調査一

自己教育力の育成に関する調査研究

近年、わが国では、急激な社会や経済の変化に対応して、21世紀をたくましく生きる人間を育成することが重要な課題となっている。そのためには、主体的に学ぶ意志、能力、態度を育てることが必要である。

今回の研究は、本県の児童生徒の自己教育力の実態を調査し、分析したものである。さらに、自己教育力の内容及び構成要素について研究し、自己教育力育成の手がかりを得ようとしたものである。

一小学校理科一

自ら考え探究する意欲を高める理科指導

一「地球と宇宙」を中心にして一

月や星の指導は、夜の観察を含んでいるため、教師の直接指導がゆき届かず、多くの困難点がある。そこで、本研究では「天体に関する指導が難しいと思われる原因は何か。」を現場教師よりさぐりだし、天体に関する児童の興味・関心度に分析を加える。そして、天体の運行現象に目を向



(小学校理科研究委員会)

けさせ、主体的な天体の観察活動を通して、時間的空間的な見方・考え方を養うような学習指導過程を工夫する。

一小学校学級経営一

個と集団の高まりをめざす

学級経営の研究

学校生活の基盤は学級である。児童がお互いに認め合い、尊重し合う学級の中では一人ひとりの個性や能力が最大限に発揮でき、児童は充実感・満足感を味わい、学ぶ心も育つと思われる。そこで、一人ひとりの個性や能力の伸長を図るために、学級における個と集団の望ましいかかわりをめざす効果的な指導のあり方を、研究協力校の実践をもとに探ってみた。

一小学校CAI一

小学校における教育用ソフトウェアの開発

一教材作成の負担を軽減する教育用ソフトウェアの開発一

CAI用ソフトの作成には、コンピュータの専門的な知識や多くの時間を必要としているのが現状である。そこで、CAI用ソフトの教材作成に関わる教師の負担を軽減するためのソフトウェアの開発を目指した。開発したソフトウェアは、ドリル型と図形の教材提示用の2つである。ドリル型は校種や学年や教科にとらわれずに、また教材提示用は小学校算数の立体の単元を除く図形の学習で利用できる。

一中学校学級経営一

個と集団の高まりをめざす

中学校学級経営の研究

学校生活の基盤は学級であり、学級経営

のあり方は個や学級集団の形成に大きく影響する。個性がそれぞれ違う学級成員を学級集団としてまとめ、高めていく事は教師の責務である。

本研究では、個と集団の望ましいかわり方についてより効果的な指導法を探って中学校2校の実践を重ねてきた。各学級での具体的問題への取り組みの実践例や指導用の資料等も紹介している。

－中学校C A I－

中学校における教育用ソフトウェア開発

－英語、技術、家庭科の教育用ソフトウェア開発－

英語科で、コンピュータを思考の道具として利用する場合の教育的効果を検討するため、「英語→日本語」変換機能、編集機能を持ったソフトを利用し、実証を行った。また、技術・家庭科に新設される「情報基礎」領域で、生徒自身がコンピュータの制御装置の役割をし、データ処理等の操作を通しコンピュータのしくみの理解を支援するソフトウェア「仮想コンピュータ」を開発した。



(中学校C A I 研究委員会)

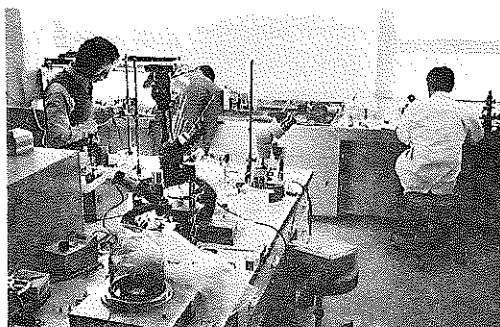
－高等学校(物理・化学)－

物質の構成・エネルギーの領域に

おける理科教材の改良と指導法の工夫
理科教育では、自然の事物・現象に対する探求活動を通して科学的な思考力や判断力を育てることを重視している。ところが本県の中学・高校での理科の学習実態調査によると、物理・化学分野は生徒の興味・

関心や理解度も低く、理科教育の目標を十分に果しているとは言えない現状である。

そこで、生徒達が理科の学習に興味、関心を示し、主体的に取り組むよう、身近な素材を用いて生徒実験の改良を試みた。



(高等学校理科(物理・化学)研究委員会)

－高等学校C A I－

高等学校における教育用

ソフトウェアの開発

－データベース型C A Iシステムの開発－

パソコンを教育現場で利用する場合色々な問題点が指摘されていて、プログラム及び教材データの質・量の向上が図られていない。そこで、エンドユーザー(利用者)、教材データ作成者、プログラム作成者に領域を分け、各々が別々に作業をして共同利用が出来るようにシステムを考えた。特に、パソコンの教科利用を考えた場合、教師の専門とする教材データベース作成が十分に機能するようにした。

－教育工学－

学習効果を高めるための

ビデオ教材の制作

－中学校理科第2分野地学領域－

理科では実験や観察が重視されているが、多くの学校では観察の時期がうまく合わなかったり、近くに適切な観察地がなかったりするため、その単元の目標が達成されにくい状況にある。これを少しでも補う方法としてビデオの利用を考え、今回は地層を観察するときの手助けになるビデオ番組の制作を試みた。なお、授業以外の特別活動の中でも利用できるように配慮した。

指導のチェックポイント

高等学校国語 中高の連携を図った学習指導の課題

小説教材の分析と取り扱いについて

(はじめに)

現代社会体制は「人間疎外」の面と「国語離れ」等が急増している。それに鑑み現行の教育課程は「人間性の回復」を願い教育現場の指導のあり方にメスを入れている。

小説教材の学力向上を図るには「理解」「表現」「言語事項」等の「教材研究」と「指導法」の「創意工夫」を図ることが大切なことであろう。そして生徒個々に学習をとおして「感動体験」をあじわわせ、興味を喚起させ、さらに意欲的、自己発展・改革ができる「てあて」が必要であろう。

以下3点、テーマの骨子を列挙すると

- ①実態調査の実施と分析
- ②小説教材の問題点の分析と課題の検討
- ③中高連携を密にし、効果的指導の強化
- ④中・高連携を図った研究授業の実践

中学校における実態調査から

対象：中3、：県内2校、男女50名ずつ
(合計200名)

問：小説教材に興味がありますか？

☆ある……33%，ない……24%

問：興味の深かった作品名は何ですか？

- ①走れメロス②坊っちゃん③吾輩は猫である④少年の日の思いで⑤沖縄の手記から

問：授業で興味深かったジャンルは何？

- ①小説②ドキュメンタリー・記録文③詩

問：どんな内容のものを扱って欲しいか？

- ①幻想的、童話的なもの②恋愛③友情④同世代の生き方⑤人間愛

問：月に何冊読みますか？(中3)

★受験期ではほとんど読んでいない。

問：小説教材でどんな点が難しいか？

- ①主題の把握②言動や情景描写にこめられた意味の理解③表現技巧の理解

問：授業でどんな点を指導して欲しいか？

①主題把握②言動や情景描写にこめられた意味の理解③全体の大筋を捕らえる
問：授業で取り扱ってほしい作家は誰？

- ①夏目漱石②赤川次郎③芥川龍之介④畑正憲⑤川端康成

※ 調査結果の分析と考察と課題

重要なことは、小説教材に「興味」は持っていないながら授業でそれが十分に機能していないという結果を示しているのである。今後は、教師の授業における「教材の精選」「教材研究」「授業の創意工夫」「教授技術」「教育情愛」等が課題として残る。

高校生の実態調査から(高1を中心に)

※ 中3と比較して特に変化の著しいものは

- ①読書量が多少増えている。特に、「同世代の主人公を扱ったもの」を挙げ、「自我の目覚め」を感じさせる。

②授業で取り扱ってほしい作家は誰ですか？

- ①赤川次郎②芥川龍之介③夏目漱石④太宰治⑤川端康成

(他の項目については「中3」の調査とはほとんど変わりがなかった)

※ 分析の考察と今後の課題

生徒は、高校になっても「小説教材」に興味は持ちながら、「授業」になると「関心」を示さないようである。教師は、小説教材の取り扱いの難しさを厳しく受け止める必要がある。

関心度からみると、女子は、「人生の生き方」・「人間愛」を扱った教材を求めている。男子は「社会問題」に関心が強いようである。

高校生は読書量が急増した。このことは、「主体的読み」の深化を指向しているし、

作中の人物の心情に同化する傾向であろう。
とりわけ、「小説教材」の学習は、「読書指導」と併行してゆかねばならないと考える。

※ 高校「国語Ⅰ・Ⅱ」における「小説教材」の採録状況と分析（収録の多い作品名）

☆「芥川龍之介」の「羅生門」

☆「中島敦」の「山月記」

☆「夏目漱石」の「こころ」

この3作品がどの教科書にも収録されている。しかし、現代高校生の「ニーズ」にも「マッチ」した適切な作品の収録も必要ではなからうか。そして「女性」をテーマにした作品が少ないのも問題ではなからうか。

中・高連携を図った小説指導について

中・高校生には「青春期という感受性の強い年代」に強烈な印象を与える小説を読ませ、味わわせ、理解させ、自己のものに昇華していくことは意義深いものである。

生徒は「豊かな心情」「人間の生きる道」等々の教育を系統的に学び、それが中・高連携で実践されるなら、すばらしい人間形成の一助となろう。以下、留意点を述べる
☆主体的で、創造的な読みの指導

☆己の生き方との関わりの中での読書指導
☆人間や人生の真実に触れさせる為の指導

中学校特別活動

新学習指導要領に基づく学級経営、学級活動について

1 はじめに

今回、教育課程審議会の答申に基づき、学習指導要領が改訂され、平成元年3月15日に公示された。中学校においては平成3年より学年進行で実施される。特別活動については、基本的内容においては変わらないものの、学校や生徒の実態に応じて弾力的な指導がなされる観点から、枠組みや内容の分離・統合が行なわれた。

そこで、新学習指導要領とこれからの学級経営のあり方や、改訂された特活の中での関連の深い学級活動についての取り扱い等について考えてみたい。

☆人や情景、心を的確に読み取らせる指導
☆主題を読み取らせる為の指導
☆読書意欲を喚起させる為の指導

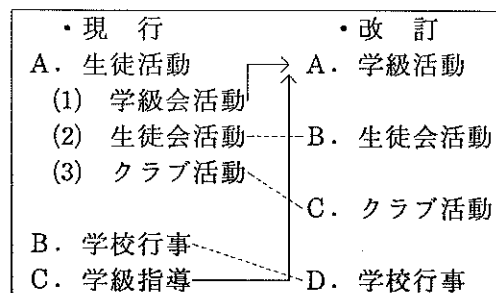
まとめ・今後の課題点として

- ① 生徒は「小説教材」に「興味」をもちながら授業に「関心」が持てないのは、教師の指導性に多大な問題点があるといえる。
 - ② その解決として教師間の教材研究で相互理解が必要であろう。
 - ③ 教材収録の面では、生徒の「ニーズ」も考慮すべき点はないのかということである。教科書に収録されている「教材」とのズレで「小説離れ」「読書嫌い」の一因に成っているのかもしれないからである。
 - ④ 中・高連携の観点からみて「学習指導」「教材」等に一貫性が欠如しているようである。
 - ⑤ 高校になると内容が一挙に高度になり、飛躍して、連携する流動性がないようである。
 - ⑥ 図書館利用と読書指導とは相関関係がある。
 - ⑦ 他教科との相互交流協力の必要性がある。
- ※ 研究授業では、課題を中・高で検証した。

（研究員 蒲原安則）

2 中学校特別活動の「内容」の改訂

今回の改訂で特別活動の内容については下記のように改められ、学級会活動と学級指導が統合され学級活動となされた。



この改訂のねらいの一つとしては、従来の学級会活動、学級指導が生徒の自主的、自治的活動、教師の計画的指導と硬直化したパターンのあり方の是正にある。会活動、学級指導のどちらにしても両者が適切に関連づけられ、相互補完的に機能する活動となされれば効果はもっと高まるとの考えからである。

3 学級経営基盤としての学級活動

学級担任として学級経営や学級づくりの仕事は多岐にわたっているが、中でも学級活動における一連の計画・指導は、学級の成長に欠くべからざるものであり、学級担任のかかわり方、姿勢で大きく影響する。

従って学級活動関連の計画、実施には十分な準備のもと、見通しをもって臨まねばならない。

4 新設学級活動の特質と意義

- (1) 学級活動は「学級」を単位とした活動であり、生徒指導の機能が働く場である。
- (2) 学級活動は生徒の必要に対応して、生徒指導を計画的に進める時間（場）である。
- (3) 学級活動の成果を上げるため、学級担任教師は生徒理解を深めるとともに、生徒自身が自ら問題に取り組む意欲を高めていく必要がある。
- (4) 社会の変化に主体的に対応できる能力（自己教育力）や、生徒に自己指導の機会を与え、その経験を通して自己指導力を養っていく。

5 新設学級活動と学級担任の対応

学級担任は、上記のような学級活動の特質と意義をふまえて学級経営や学級活動にあたらねばならない。

学級経営は1年間の展望を見ながら、個々の生徒や学級集団の望ましい成長と向上をめざす訳だが、とりわけ学級活動は学級経営の重要な位置と役割を占めている。そこで、学級活動に際しては綿密な計画のもとに積極的に展開がなされねばならない。

(1) 指導計画の工夫

- ① 従来の「学級会活動」「学級指導」の活動と指導が一方的に片寄ったり、偏したりないように、適切に活動と

指導の時間配分の設定に配慮する必要がある。

- ② 学級活動は、教科のように年間予定を組みにくい面もあり、指導時間が不足しがちである。朝、帰りの短学活等の時間も有効に活用する工夫が望まれる。
- ③ 従来の学級会活動及び学級指導に要した時間を明らかにし、今後の学級活動の取り込みの内容や時間を考慮しておくこともよい。
- ④ 学級活動においては、展開される本時においてもだが、展開前の準備過程が重要な意義をもつ。内容によっては数週間前からの生徒達との下準備、プログラム委員会等の開催など一連の過程での活動が大切である。4の(1)、(2)、(3)、(4)がこの過程でも生かされねばならない。

(2) 実践上の課題として

- ① 今回の改訂で指導上特に留意すべき第一点として「人間としての生き方」の指導を充実する視点がとりあげられている。道徳の指導との関連をもたせながら、学級や個々の実態の問題に気づかせ、一人ひとりのあり方や生き方を考える学級活動も望まれる。
- ② 望ましい集団活動の育成は、不可欠の条件であり、学級生活の充実、向上の大前提である。望ましい集団の創造には、小集団活動がぜひ必要であり、常日頃の学級経営の中で小集団活動を取り入れ、学級成員の相互理解、相互信頼を培っておく必要がある。

③ 学級経営への真しな姿

学級経営の成否は、究極学級担任の情熱や使命感に負うところが大きい。学級の問題解決へ試行錯誤しながら生徒と共により良き学級の創造に努める教師の真しな姿勢が必要。

（研究員 栗原 崇）

長期研修生寸感

研鑽を積む

本年度は、長期研修生として小中高の28名の先生方を迎えました。先生方は所報51号でお知らせした研究テーマのもとでそれぞれ研修に励んでおられます。また、教師としての力量を高めるための各種の研修にも参加されています。研修生活の中で、ふと洩らされたつぶやきを集めてみました。なお、次の先生方は、既に研修を終えられ、現場で活躍中です。桑原勝彦（太良高）堤 堯子（唐津西高）金丸安隆（佐賀農芸高）黒澤 徹（伊万里農林高）

歩 み 一小学校国語一

北川副小学校 樋口 順子

夢中で過ごした四か月でした。いろいろな方々に助けられ励まされ…いよいよこれから、自分の歩みになるようにまとめなくてはなりません。小さくても、確実な一歩に。

出発点 一小学校国語一

七山小学校 岡本 淳一

「一番大切な事は、本には書かれていない」という指導をかみしめ、この研修の成果を新たな出発点としたい。教職十年目の私にとって、大きな一里塚となりました。

DO My BEST 一小学校社会一

中川副小学校 小宮 宏

平成のスタートの年に教育センターで研究できたことは、私にとって素晴らしい体験でした。残りの期間も全力をつくして、頂上をめざしたい。DO My BEST!

感謝 一小学校算数一

北鹿島小学校 中村 良子

恵まれた環境と多くの出会いの中で、教師として人間として大切なものを学び直している気がします。今、これからの人生のためのエネルギーを蓄積中です。

自分を見つめて 一小学校理科一

思斉小学校 原 善孝

この4か月、様々な文献を読み、多くの先生方から指導をいただいたが、これを今後の実践に生かすのが課題である。今の自分から少しでも変わって研修を終えたい。

実感 一小学校CAI一

兵庫小学校 藤田 敏彦

この研修で、本を読むことの大切さ、教材研究の進め方が身についた。また、ゼロからのスタートであったパソコンの知識が「自分のものになってきた」という実感だ。



(長研生 史跡探訪)

寸 感 一小学校特別活動一

東川登小学校 橋口 美紀

季節の色模様も、もうすぐ春。半年間の研修は教育の一端にふれるものであったが、文献や検証の試みから得た一握の糧を4月から、すぐ生かしたい今の心境である。

見つめる 一小学校道徳一

大山小学校 山口 邦彦

ひたすらに、ただひたすらに「魅力ある道徳授業の創造」を問いに続けてきた4か月。「子どもを知る」そして「自己を見つめる」ことこそ研鑽の道なりと悟れり。

自己評価 一教育評価一

鳥栖北小学校 渡辺 哲弘

生涯教育が盛んに叫ばれている今日、気づかせて見守るという姿勢が増々大切になってくると思う。今後「自己評価」させる機会が増えてきそうである。

寸 感 一教育相談一

久里小学校 吉田 道彦

子どもの視線までさがって子どもをみる。そんなこと当たり前じゃないか、いつもやっていることだと思っていた。しかし、今、この当り前のことの難しさを痛感している。

〇〇歳の冷や水 一中学校国語一

神埼中学校 福島 洋子

水面下に当然あるべきものを、生来の意

け心で、これまで蓄えてこなかったつけの大きさに愕然としながら、担当の先生方や若き仲間에게 助けられて研修に励んでいます。

研 修 一中学校数学一

千代田中学校 吉村 日好

研修が必要な事はわかるが、学校では余裕がない。センターに来て指導法をじっくり考えると次々に課題ができる。この課題に対し一日中一没頭できる事は最高である。

食欲に 一中学校理科一

中央中学校 佐伯 正見

漫然と日々を過していた私が、研修の機会を得て多くの事を学ばせていただいた。まだまだ私にも吸収能力が備っていると感じるとともに食欲に学ばなければならないと思う。

自分を見つめ直して一中学校英語一

山内中学校 小川美知子

秋から冬、そして春へ。時の過ぎるのが速いこと！あれもこれもと思いながらももう残りわずか。でも今後の自分の課題だけは、はっきりと見えてきた感じです。

新教材？ 一中学校CAI教育一

鬼塚中学校 美間坂忠義

「正の数・負の数」の加法、減法の説明にあたっの教直線とは異なる教材を開発して見たいと思います！全国の数学の先生方、吃う御期待？

唯我独尊 一教育相談一

嬉野中学校 池田 正明

この6か月間に、さまざまな人間の生きざまに接し、人間と自然のすばらしさに気づくようになった自分を発見しつつあります。

贅沢 一高等学校社会一

牛津高等学校 千綿 雅

各種の研修会への参加、中間報告会の発表そして報告書作成と、頭を掻きながら4か月余を過してきました。この贅沢な悪戦苦闘の日々がもうしばらく続きます。

研修雑感 一高等学校社会一

神埼高等学校 松浦 洋士

長いようで短い6か月、現場にいる時は、全部を読むことなどとてもできない専門書にじっくり取りくめたことなど、全体として大変有意義であったと考える。

破壊(?)と創造 一高等学校理科一

佐賀北高等学校 東嶋 徹

この研修で、IC・コンデンサー・抵抗コンピュータをこわした。そして実験装置ができた。これは生きた体験として、生徒に話すことができる。この機会を感謝。

内観の日々 一高等学校英語一

有田工業高等学校 徳永 智浩

学校でつかめない何かを求めて研究にきましたが、分かってきたのは自分の無能さばかり。反省と苦悩の日々が、自分の糧になっていると、信じて過ごすこの頃です。

寸 感 一高校CAI一

金立養護学校 山田 洋

教授方略などの研究がしっかりしていないと、せっかく作ったプログラムも役に立たなくなってしまう。基礎的な研究が大切だと思ふ今日この頃である。

寸 感 一高等学校情報処理一

嬉野商業高等学校 田中 順

コンピュータが思い通り実行しないことは、コンピュータに向うときの姿勢が、悪いときだと聞いています。今後どのような姿勢で望むかが課題です。

雑 感 一高等学校情報処理一

伊万里商業高等学校 吉野 憲治

自然に恵まれた環境で研修ができることを感謝し、貴重な経験をさせていただいております。今後とも、常に瑞々しい心を持って、生徒と接していきたい。

何かを求めて一中・高等学校数学一

弘学館中・高等学校 重松 孝浩

探し続けてきたものが、やっと見つかったような気がする。研修で得たものは、教師として生きていくための心の拠り所となるだろう。憧憬と雌伏の時も残り少ない。



(水曜談話会)

私のすすめる「一冊の本」

「宗教と教育の知恵」 (学習研究社)

俵 谷 正 樹

教師として自分の教育観、教育実践を省みない者はいません。より深く、より高いものを求め続けています。多くの教育原理、方法を解いた書は繙くには大冊であったり、難解であったりしがちです。この本は日本に伝わった佛教の中に見られる教育の理論、方法が一話1ページで説かれており、50話、何時でも、何処でも、どこからでも読めるようになっています。ご一読を。

唐津市立大成小学校

校長 丹 野 譲

「とべないホタル」 (ハート出版)

小 沢 昭 巳

最近の子どもたちは、「心の貧しさや感動する機会が少ない」という声をよく聞く。

本書は、作者の小沢校長先生が若い頃、受け持っておられたクラスに、足の不自由な子どもがいて、その子をいじめから救いだすために創作された童話である。

内容は、勇気と友情、優しさに満ちた一冊の小冊子である。教師も子どもと共にぜひ読んでもらいたい感動の本である。

鹿島市立鹿島小学校

校長 外 尾 敬三郎

「生きがい」とは何かー自己実現への道ー

日本放送協会 小 林 司

表題に魅せられて読んでいたうちに一気に読んでしまった。精神科医である著者が●自己実現とは、自分の可能性を十分に伸ばす過程である。●自己実現はあくまでも「生きるかい」であって、「働きたい」とか「遊びがい」とは区別されるべきだ。

●人間らしく「生きるかい」とは、自分に運命づけられたそれぞれの場で、他人に少しでも思いやりと喜びを与える生き方をすることが大切だ。座右の書として勧めたい。

伊万里市立伊万里中学校

校長 畠 山 孝 郎

「娘より父親への30通の手紙」

竹内書店新社

ここに集まった娘から父親に宛てた30通の手紙は、それぞれ異なる家庭で育った17歳から30歳までの娘さん30人のいわば父親像です。ほとんどの父親は自分の娘が可愛くてたまらないはずです。しかし父親をどう思っているか、なかなか本心がつかめず、不安を感じているのではないのでしょうか。

その娘たちが手紙なるが故に初めて本音で語った父親の生々しい現実像と理想像。

伊万里農林高等学校

校長 野 中 正 樹

ーレファレンスー

お 応 え し ま す !!

教育センターの事業の一つに、レファレンス(照会)・サービス活動があります。これは、図書資料の幅広い利用を意図して行うもので、学校からの問い合わせ、来館者の要求に応じて資料を紹介し活用の便を図るものです。

本年度も、県内小・中・高校はじめ、教育庁関係、他県教育センター、そして個人より多くの問い合わせがありました。その内容は次のようなものが多く、レファレンスにお応えして検索、紹介いたしました。

- 研究紀要(各県教育センター・県内研究発表校・全国大学等で発行したもの)
- 参考書・文献・教科書・指導案等
- 九州管内先進校(研究校)について
- 教育に関する歴史的資料について
- 県内各学校の研究動向について

上記のような事柄について、お尋ねの向きがございましたら、「教育資料係」へお問い合わせください。

(TEL, 0952-62-5211内線42)